

# 会議議事録

						記録者	主幹 関口 裕城	
供覧	部長	政策監	課長	補佐・GL	係長		課員	
<b>件名</b>		平成 25 年度第 3 回龍ヶ崎市公共施設再編成行動計画 有識者会議						
<b>年月日</b>		平成 25 年 8 月 21 日（水）						
<b>時間</b>		午後 2 時から午後 4 時						
<b>場所</b>		龍ヶ崎市役所 5 階全員協議会室						
<b>出席者</b>		<p>&lt;有識者会議委員&gt;            藏田幸三委員長 倉斗綾子副委員長 岡田直晃委員 西尾真治委員            志村高史委員 松尾健治委員 飯田俊明委員 龍崎 隆委員 8名</p> <p>&lt;事務局&gt;            直井政策推進部長            （企画課）            島田企画課長補佐（行政改革推進グループリーダー） 小林主幹 関口主幹            （財政課）            生井係長            （アドバイザー）            PHP 総研 佐々木氏</p>						
<b>欠席者</b>								
<b>報告及び議題</b>		(1) 有識者会議全般における論点 (2) 第 3～5 回までの進め方について (3) 行動計画登載施設の選出について (4) 公共施設再編成に向けた新しい「カタチ」とは						
<b>会議録署名人選出</b>		龍崎委員、飯田委員を選出						
<b>傍聴人の数</b>		2 名						
<b>情報公開</b>		公開	非公開（一部公開を含む）とする理由		（龍ヶ崎市情報公開条例 9 条 号該当）			
		部分公開 非公開	公開が可能となる時期 （可能な範囲で記入）					

<b>発言の内容</b>	
<b>事務局</b>	<p>定刻となりましたので、ただ今より、「平成25年度第3回龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議」を開会いたします。</p> <p>なお、当審議会は「龍ヶ崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、公開となりますのでご協力お願い申し上げます。</p> <p>本日は本会議におきまして、傍聴の申し出がありましたので、これを許可しております。傍聴人に申し上げます。会議中は、静粛に傍聴いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議録の署名でございますが、名簿掲載順ということで、龍崎委員、飯田委員に、議事録署名人をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします</p> <p>それでは、委員長お願いいたします。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、よろしく申し上げます。では、次第に沿って議論を進めて参ります。</p> <p>まず、最初に「1 有識者会議全般に関する論点」と「第3回から5回目までの進め方について」、まとめて事務局からよろしく申し上げます。</p>
<b>事務局</b>	—事務局説明—
<b>藏田委員長</b>	<p>1が有識者会議の全体として最終の提案として検討しなければならない全部の項目で、今回は、今お話のあった、1と2の(4)を中心に議論をすると。2(1), (2), (3)は、2(5)は前回議論をしました。報告書の論点として残っている選定の基準と次世代に誇れる新しいカタチのあり方を今回議論していきます。</p> <p>この1回2回の議論をトータルにまとめて、第4回に事務局としての骨子案を出して検討していきたいので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>今回の議論としては、選定の考え方と新しいカタチということが2つの大きなテーマになります。議事は2つに分けて、まず最初に登載施設の性質の考え方について、30～40分議論を進めていきます。今、一部ご説明にあられましたが、改めて事務局として、全体最適化に盛り込みたいたたき台としての考え方を10分位ご説明願います。</p>
<b>事務局</b>	—事務局説明—
<b>藏田委員長</b>	<p>項目としては1,2,3の3つをやるということで、ルール化の対象としてピックアップする考え方がいかなものかというのが1つ目。2つ目は5年ごとにピックアップするために、必要な情報①、②、③を明らかにしていき、ここの部分はファシリティマネジメントと固定資産台帳や客観的なデータとどう組み合わせていくか、その辺のアイデア、アドバイスがあればお伺いしたい。3番目はそうであれば方向性、大局感を何か持つ必要があるが、その考え方として、機能については相対評価、規模については財政計画との整合という視点を持ちたいと思っておりますがどうですか、という点が問題提起になっております。どこからでも結構ですので、お気づきの点があれば、ご意見ご質問お願いします。</p> <p>はい、倉斗委員、どうぞ。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>3ページ目の(③)の方向性を定める基準で、「機能の拡大縮小などの方向性は」の「近隣団体」の「団体」という言葉のイメージはどういったものですか。</p>
<b>事務局</b>	<p>近隣自治体という意味です。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>その施設、ハコがある近隣の地域、自治体。類似団体ということですか。</p>
<b>事務局</b>	<p>人口規模が同じくらいの団体と考えています。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>団体というのは、自治体と訳して読めばよいですか。</p>
<b>事務局</b>	<p>はい。</p>

<p><b>西尾委員</b></p>	<p>今までお伺いしていることと重なるが、全体の施設から一部の施設をピックアップするという考え方で、ご説明にもあったように、全体最適がまず優先であって、その中で、個々の施設をどうするかと考えていく順番にしないといけない。個々の施設からどうするか考えると、なかなか全体最適の観点からの施設のあり方に直すのが難しいと思うが、どう考えているのかなど。お伺いしているとどうしても、個々の施設の状況からピックアップする対象施設を選んでいく、というように見えてしまうが。その中でどうやって全体最適という観点をに入れていくのか、そこについてはいかがですか。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>先ほど申し上げた通り、今のところは、当市の施設の状況から見ると、地域にある施設と全体的な市の施設、一つの目的を持って作った施設、その二つの見方から分析を進めている状況です。全体的な観点ということでは、一つ一つを見ながら考えるという、現状の把握の方法が今のところは妥当だという考えです。</p>
<p><b>西尾委員</b></p>	<p>例えば、さいたま市は、まず全体の大きな枠を決め、40年間で全体で15%の延床面積を減らしましょうと。全体で15%減らすためには、どの施設をどれだけ減らしていけばいいかと、ミクロの方に落とし込んでいく。そのようなアプローチが1つかと思います。これも申し上げたかもしれないが、全体と言わずもう少し中段階ぐらいの方針、例えば学校施設としては何を目指していくかという方針があれば、その中で個々の施設を見たときに学校全体の方針と比較してどうかと個々の施設に検討を移していく。あくまでもマクロの観点があって、ミクロ、個々の施設を見ていくという、要素を入れていく必要があると思います。</p> <p>もう一つ、選定ということで、例えば、さいたま市の場合は、まずは物理的な状況を見ています。建て替えの時期がいつ来るのか、耐用年数を設定して建て替え時期がきた施設について、建替えの時にそれを更新するのか。単独施設のまま同じ施設として更新するのか、複合化していくのか、或いは廃止していくのか、更新を一つのタイミングにしている。今回、こちらで行動計画に載せて対象施設の選定をしていく時に、それも一つの考え方としてあるが、更新時期を迎えていない施設、まだ使える施設でもこの行動計画の対象として俎上に載せて、廃止などの検討をしていくと、そこまで考えて選定ということが使われているかどうか、そこはいかがでしょうか。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>前回、総量削減の意味合いが強いということで、総量削減の意味合いだけではなく、運営主体の変更まで考えていくことも含めて、当市は学校とコミュニティセンター以外は、基本的に一つの施設で一つの機能というのが基本で、機能を全く無くしてしまうというよりは、その機能の量を加減していくという考え方でやっていけばよいのかなと考え、このような形にしました。</p>
<p><b>西尾委員</b></p>	<p>そうすると、必ずしも対象になった施設を物理的に縮小したり廃止するとは限らず、先ほどおっしゃった運営の見直しや、ソフトの改善を含めた対象という捉え方でよろしいか。それであればいいと思います。そうではなく、あくまでも物理的に縮小したり廃止したりする対象を選んでいくと相当ハードルが高く、客観的な基準でもすでに施設を使われている市民の方がいらっしゃる中で、大きな方向性の対象の施設を機械的に選んでいくのは難しいと思っています。ソフト面の改定を含めた対象施設という考え方であればよいかなと思います。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>事務局、どうぞ。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>西尾委員にお尋ねしたいが、先ほどの繋がりのお話で、例えば物理的に見てその施設が更新時期を迎えたということではなく、前もって使用できるにもかかわらず、もしくは新しい場合、俎上に上げた時のもう一つの視点としては利用状況や、どれだけ使用されてるかという視点があると思いますが、その他の視点としてはどうい</p>

	うものが考えられるかをご教示願えればと思います。
<b>西尾委員</b>	こちらで想定されている利用状況のほかには、コストの状況や運営の効率性等が大きな視点になると思います。龍ヶ崎市が整理されている物理的な状況以外に、コスト状況と利用状況を見ていくことで概ねカバーできると思います。
<b>藏田委員長</b>	他に、岡田委員、志村委員。
<b>志村委員</b>	<p>まず、1点目、西尾委員の話と共通する部分があるが、選定基準は当然必要です。基本方針にはあるが、客観的にこういう視点で選び上げたと、それが良い方向へ進む話ばかりではなく、この施設は統廃合されるとか、建て替えしませんが、廃止しますという場合もあるわけです。そうなると、目指すところ、なぜ、この施設が選ばれたのかという利用者の納得性をもうちょっと明確なビジョン、この施設を今回の選定基準によって選び上げて、ここから生まれてくるお金がこのくらいあって、それが将来のここに当たっていくんだよ。だから、こういう大事なものは残していけるんだというもっとシンプルな示し方が最終的にできたらすばらしいと思います。往々にして、我々が考えているようなレベルと、市民の方が分かりやすいレベルが違います。</p> <p>例えば「この土地を売ったお金を、シンプルにこの体育館の建て替えに当てるんです」。お金に色がついてるわけではなく、売ったお金をそのまま金庫に入れておいて、それを支出するわけではないが、そういうやり方をすると非常に納得が得られやすいというのが過去の経験にあるので、選定基準を設けてピックアップをする。それは何のためにピックアップされたのかも併せて示すとより良いのかなと思います。</p> <p>もう1点は、非常に気になるが、長期保全計画、ファシリティ・マネジメントをすでに龍ヶ崎市では結構前から進めている。或いはそれ以外の行革全体の取り組みもある程度進めている自治体で、今改めてファシリティ・マネジメントと言っても、どれだけのものが出てくるのかという懸念がある。何が起きるかということ、長寿命化しましょうとか、予防保全の工事やりましょうかと言っても、やはりお金は必要で、そのお金がどこから出てくるのかという話になってくる。経常収支比率を見てもだいぶ秦野市と財政状況が似ている。秦野市がこれを出していないのもお金が出てこないと分かりきっているからです。</p> <p>計画を作ったとしても、隣に財政課長さんがおられて、私が龍ヶ崎市の財政を詳しく事細かに承知してるわけではないが、これは陥りやすい、失敗しやすいパターンと言ったら失礼かもしれないが、「長く大事に使います」というのは市民に対して非常に受けが良いから、あまり大きな反対が起こらない。できるだけ施設の量は減らさない方がいいと、市民サービスの低下をできるだけ招きたくないというのは当たり前のことで、だからといって長期保全計画、そこだけに頼ってしまって、行き詰まってしまった自治体を幾つも知っている。財源までしっかりと捉えられ、下に財政計画との整合と書いてあるが、市全体の財政計画でやってしまうと、おそらく、また施設の事は後回しになってこざるを得ない。扶助費はこれから幾らでも膨らんできて、どうしてもそちらに取られるので、できればこの公共施設の世界の中だけで生み出したお金、創意工夫で生み出したお金で長期保全計画の原資も作るというやり方をしないと、行き詰まる恐れがあることを経験から得た意見としてお伝えしておきたい。</p>
<b>藏田委員長</b>	飯田委員、どうぞ。
<b>飯田委員</b>	今、志村委員から財政計画との整合性ということで、整合性の問題は財政計画の密度というか、どの程度の段階で考えるかにあると思います。一般的に計画という部分で考えると、財政の細かな積算を長期で考えた場合に本当にできるのかという

	<p>部分もあるが、ある程度、大枠の中で割りと流動的に対応できる形での財政計画を考えられればと思います。掘り下げていくと、いやできません、これは無理です、という予算の査定レベルの話になってくるので、その辺は財政計画の捉え方を柔軟に考えていくのも一つの視点としてあるのかなと。もちろん、「お金がなくてはできません」という話になると思うが、計画の中では一呼吸置いた形で整合性を図るというのも一つの手かなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ありがとうございます。松尾委員、どうぞ。</p>
<b>松尾委員</b>	<p>おそらく、志村委員がおっしゃった通りで、長期保全計画をきちんとやろうとすると、多分、今龍ヶ崎に限らずどこの自治体もできない財政条件になっているという気がします。一方で長期保全計画を作ろうとすると、建物の更新の時期だけではなく、設備を更新したり、或いは建物を大規模修繕する時期は、必ず計画の中に出てくると思うが、その時に財政計画と照らし合わせて整合が図れなければ、それはひょっとすると、今やろうとしている公共施設再編成の取り組みに反映されてフィードバックされていくのかなと。その辺がファシリティ・マネジメントと全体最適化の取り組みのちょうど橋渡しになるのかなと、今話を伺って思いました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>岡田委員、何かコメントは。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>ちょっと戻ると、最初に新しいものを運営主体等を変えて市の手を離して、機能は維持していくが、公共施設としては民営化なのかどうなのかかわからないが条件がと確かおっしゃったが、あともう一つ、引き受け手がいるかないかが大きいかなと思います。やってくれる人が見えていればお任せできる。なおかつ、やってくれる人に質があり、公共サービスの質の維持ができるのであれば移せばいいだけの話ですので、ヒアリングもできればいいのかなと今思いました。</p> <p>もう一つ、財政計画等の絡みで思うのが、財政計画との整合でいくと確かにお金は出てこない。習志野市でもそうです。お金が出てこないからどうするか、その通りやると先送りの計画を作ってしまうので、それではいかんだろうと。それプラス先ほどお話にあったが、これを売ったらこれぐらいの原資が出てくると。土地の取引もやはり、相手がいてこそ数字が出てくる。路線価もあるので多少前後がある。前後があるにしろ、事業費がこれだけで財政計画でいくと全然足りないが、売ったらこれ位見込めるのというのがあればやればいいし、果たしてそれが売れるのかというところで今我々もチャレンジしているところで、こうすればいいのではと言えないが、これぐらいの金額は未利用地の売却で出るでしょうと。最後にやらないといけないのは、ここまで借金しますというところまで出さないといけないのかなと内部で議論している。</p> <p>ここまでは、未利用地の売却益、ここまではお金を出すというのを出そうとすると、やはり「これだけのお金がかかります」という客観的な部分も明らかにしないといけないので、それをまず、目安として出そうかなというところを中で議論しているところでは。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>その辺は、方向性、大局観のところでの財政計画との調整に心配があるのではというところでは。「財政計画と調整した結果だめでした」となってしまうリスクが経験上あるので、それについてなんらかの考えが必要ではないか、少し表現を変えるとか必要なのかなどうか。</p>
<b>龍崎委員</b>	<p>確かにおっしゃる通り、お金がないと何も進まないのが現状なので、この比率にもある規模の拡大縮小との方向性についても、財政計画と整合を図っていくということで、皆様のご意見を踏まえて、この部分をもうちょっと精査していきたいと思っています。</p>

<b>藏田委員長</b>	ありがとうございます、倉斗委員、何かありますか。
<b>倉斗副委員長</b>	選定基準で三つの視点が①②③と。これは横並び、同じく並行して見ていくようなことなのか、それとも、物的状況とコストを見て、その状況が悪ければ稼働率を見てと、コストがかかっているがとても稼働率が高いなど、判断しがたい部分が具体的に進めていくと出てくると思うのですが、それが同じように①②③と横並びに見ていくのか、これがだめならやるといふ形で行くのかという部分は何かお考えがありますか。
<b>事務局</b>	今のところはこの三つを横並びで考えていました。それで引がかかったものについて、どういう方向にするか(3)で考えていければと思っていたところです。
<b>倉斗副委員長</b>	事例がないので分からないが、困ることが出てくるのかなという印象を持ちました。
<b>藏田委員長</b>	他にございませんか。はい、松尾委員、どうぞ。
<b>松尾委員</b>	ここはウエイトをつけたほうがいい気がします。ハコとか機能とか言葉はいろいろ言っているが、やっぱり物理的な状況をかなり重要視しないといけないと思う。それが、建物だったり設備だったりいろいろだが、ひよっとするとウエイトを付けたほうが良いのかなと思います。
<b>藏田委員長</b>	はい、西尾委員、お願いします。
<b>西尾委員</b>	<p>選定をしてその後、方向性を定めることが基準によって自動的に判断していくのはかなり難しいとの感想をもっている。先ほど申し上げたが少なくとも、更新時期を迎えている施設なのか、まだ使える施設なのか、取り扱いの仕方ではそこは分けたほうが良いと思います。3つの視点の中で例えば利用率が低くてまだ使える施設がピックアップされたとして「じゃあ、利用率低いから、機能縮小ですね、財政も厳しいから規模を縮小ですね。」と、利用率の低い施設は自動的に縮小という方向になってしまわざるを得ないのかなと。まだ使える施設なのに、縮小してどうやってやっていくのかと袋小路に落ちてしまう気がするので、倉斗委員からもあったが、実際のケースを想定して考えていかないと、動かしようがないところに陥ってしまうのかなと思います。</p> <p>特にまだ使える施設は、規模や機能を物理的に縮小していくよりは運営を改善していくとか、ソフト面の改善というところに持っていけるような基準や考え方を整理しておく必要がある。</p> <p>もう一つ加えると、その時に今は施設単位ごとにどうするかという方向性の定め方になっているが、施設を複合化していく観点をどこかに入れた方がよい、複合化によってなるべく機能を維持する。運営の改善という観点では、先ほど民間力の活用といった話もありましたが、委託に限定しないでいろいろな民間力の活用、PPPによってコストを下げたり運営状況をよくする視点とか、場合によっては民間企業だけでなく市民との協働によって、運営を効率化していくという改善の方向もあると思いますので、それも含めて方向性が導けるように工夫しておいたほうがよいと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	複合化の視点は、どこでどのような形で対応するのか。複合化を考える必要はあると思うのですが、施設単位で考えれば、施設は単機能だとすると複合化するのはどのタイミングで考えているのでしょうか
<b>事務局</b>	今のところ考えられるのは、選出の仕方では今後は行動計画を作っていくにあたり、具体的な施設が検討の結果上がってきて、計画に載って進む中で実際に利用の仕方や機能の部分や複合化などについてその過程で検討されるという考え方を持っています。

藏田委員長	はい、分かりました。はい、西尾委員、どうぞ。
西尾委員	例えばですが、さいたま市の場合は施設が更新時期を迎える時には複合化をするという原則を設定しています。必ず、まずは複合化によって周辺の施設を取り込んで、それがいわば全体最適につながっていくのかなと思います。そういう検討をして、それがどうしてもできないときに、初めて例外的に単独で建て替えをしていくという検討のフローをしています。そういうものをある程度ルール化、制度化しておかないと、なかなか複合化の検討は難しいかなという気がします。
藏田委員長	倉斗委員。
倉斗副委員長	西尾委員の意見に全く賛成ですが、このフェーズではないんですが選定基準を市民に示した時に「こういうことを見ていきますよ」とチェックする視点は分かるがチェックした後はどうだったらどうなのかということまでを見せておかないと、見られた後に「じゃ、ここはこうします」というと、やっぱりそこに不満や「なんで」という話が出ると思うので、「ハコモノの物的情報については耐用年数にするのか、古ければ廃止するのか、複合化するのか、売却するのか、という選択肢がありますよね」とか、「コストについては運営方法を考えるという選択肢が出てきますね」というように、それぞれのチェック項目を見たときに、その次の段階としてどういう選択肢が用意されているのかまでお示ししたほうが、流れがスムーズになるのかなという印象がありました。
事務局	西尾委員にお伺いしたいが、先ほどの話で、さいたま市の場合は、狙上に上がったものは一つの基準として複合化になる。そして、それが全体を縮小していく中の施設になっていくというイメージでよろしいでしょうか。
西尾委員	さいたま市の場合はピックアップするという考え方を取っていないので、すべての施設について更新の時期がいつ来るかを明確にして、更新の時期が来たときにはその建物をどう取り扱うかを、更新の時期の3年前から検討を始めることにしています。その時、必ず複合化を前提に検討していくという考え方にしています。
藏田委員長	ご説明いただいた通りに、龍ヶ崎市はピックアップすることが前提で、ピックアップする条件は、という議論を進めていきたいということですね。
事務局	当市の状況を考えてみた時に、市に一つの目的を持ってその施設があるということは何回か申し上げていて、一方地域にあるのは、例えばコミュニティセンターや教育施設で、複合化が一番いいと思いつつも、一番多いのは教育施設の学校やコミュニティセンターで、どうも発想にいたらなかったので改めてお伺いしました。
藏田委員長	論点の一つ目、選定基準の抽出の考え方は一応議論としては区切りをつけて、次の議論の中でも関わってくるので、時間的に次の議論に進みたいと思います。次第の4、「公共施設再編に向けた新しいカタチとは」について、議題を進めていきます。ここではまず、龍ヶ崎市ではどうかという議論に入る前に、倉斗委員に、機能の複合化やその他事例を含めて、こういった取組や工夫があるという紹介と共に、新しいカタチのイメージの材料になるものを少しお話いただければと思います。よろしくをお願いします。
倉斗副委員長	適宜質問等をいただきながら進めていただければと思います。 いくつか複合している学校施設の事例ですので、写真と共にご紹介します。 まず、こちらは、埼玉の戸田市にある葦原小学校ですが、埼京線の開通に伴ってベッドタウンとして開発が進み、その地域にあった小学校の分離新設校という形で建った小学校です。こちらはプロポーザル・コンペで行われて設計者が選定されましたが、その時要綱に書かれていた文句が「まちづくりは人づくりから」です。「人を作る学校」という施設をこのまちのキーとして作っていきたいということが書かれています。

これが敷地で、ここの部分にスロープがあり、これが市道の歩道で、ここから2階に直接上がって行けるようなスロープが設計されています。まだ現在はそんなに開放していないが、この2階はすべて特別教室になっていて、いずれこういったところが地域施設としても開放できる時代が来たときに、ここからも直接2階の特別教室に行けるようにという設計です。こちらが1階でパスと呼ばれていて、市の歩道から直接通りに、近道のように通り抜けができる形で街路を学校の中に取り込んでいるという設計になっています。黄色い部分が普通教室、ピンクが職員室と管理部分、緑が地域に開放することを想定した施設でと要項には書かれています。この部分は完全に切り離しても運営できるような形で設計されています。

先ほどの2階ですが、2階はすべて特別教室になっていて、地域から要望があれば、図書室や多目的教室や、音楽室、図工室も開放していきたいと校長先生もおっしゃっていて、かなり地域に対して開く気がある学校です。3階には子どもたちの教室があるという構成です。2階に昇降口があり、階段を上がってきてそれぞれ学年の昇降口から学校に入っていくというようになっています。この下が通り抜けのできるパスで、ここに面したこの部分が生涯学習施設として日中も地域の人が使う施設になっています。ここに小さな子どもが走っているが、これが2階の特別教室の部分で、音楽室など、すべてオープンな形で作られています。地域のイベントではこの2階部分が開放されて、お祭りのようなことをやっています。学校と地域がいっしょにやる合同給食会、お祭りなどが年に1・2回開かれています。授業参観の期間は保護者が歩いていることが多いのですが、子どもがいない地域の人でも、どうぞ入ってくださいと、このようにおじいさんが掲示物を見ていたり、それからおさりのコーナーというのがある、いらなくなったものをどうぞ使ってくださいという形で置いてあるのも地域に開かれた学校という感じがします。これも授業参観の日で一日中授業参観をやっているの、退屈した下の子を連れてお父さんが2階の広場でおしゃべりをしているようなシーンがあったり、運動会のときも休憩場所になっていて親御さんたちがくつろいでいる姿がみられます。

1階のパスに面して生涯学習施設や校長室があり、大人目が点々とあるように設計されています。生涯学習施設も地域の人が日中から利用していて、ギャラリーには、地域の障がいのある子供たちの学校の作品が展示されていたり、高校の書道部の作品と小学校の授業で作った作品と一緒に展示されていたりといった交流も行われています。生涯学習施設では母親達のサークル活動が行われています。パスはベンチも設置されているので、散歩の途中に立ち寄ったお母さんがいたり、校長先生は雨宿りにこれる学校ということで自慢されています。こちらは、地域サロンで設計者の提案で生涯学習施設のゾーンに入っているのですが自由に使える場所をもっているよいかと設けられていて、この日は授業参観の日でお母さんたちがボランティアで喫茶店を開いたり、この場所が卒業生の同窓会の場になって、土曜日だったので中学生が集まってきて懐かしい話をしているということもありました。

こちらが一つ目の事例です。

それから、こちらは武蔵野市のシンポジウムでもご紹介した事例なのでご覧になった方もいるかと思いますが、下関の豊北中学校で、こちらは少子化で四つの町にあった四つの中学校が一つの中学校に統合され統合新設校として設計されました。その時に地域で唯一の学校となってしまうので、地域の学びの拠点となる学校にしたいという地域からの要望で設計されています。特徴としては、大きな1階の図書室が、地域の町立図書館として使われるという設計になっています。今は下関市に統合されたので市立図書館になっています。昇降口から入りますと地域の方の玄関ですが、入ると吹き抜けの大きな図書があって、こちらには市の職員と嘱託員が貸し出し業務を行っています。その隣にあるのが職員室です。

日中、子どもたちが授業で移動している時にも地域の人が本を借りに来ている姿があります。学校の図書室も兼ねているので、書棚で分けているが、立て看板や貼



り紙で本の管理ができていうことで、非常に穏やかな地域と言うこともあって上手に使われていると思います。窓際には児童図書が読めるスペースがあったり卒業したての中学生が私服で遊びに来ているような姿がありました。高校にあがった卒業生が定期試験の勉強に来たり、とても良いという評判です。地域の方が来る学校なので、美術の先生も定期的に作品を展示して、美術館のような形で見てもらいたいという工夫をしています。奥には地域ラウンジがあり、将来喫茶店などを開けるように提案されています。

今、ご紹介した2つの事例は、新設の学校として地域の施設にもなれるようにというコンセプトで設計されたものです。次にご紹介するのは、少子化で余裕教室がたくさんできてしまった学校で地域施設を複合化しているというような事例です。

こちらは、笠原小学校とあって、建築の世界ではかなり有名な、非常に特徴的な象徴的なデザインの学校なので、自治体としては壊すのではなくて長寿命化して、利活用し続けていきたいという方針を打ち出しています。設計当初は学年4クラスの設定で設計されていたが、現在学年2クラスになってしまい、約半分の教室が余裕教室に単純計算でなってしまうという状況です。

その中の1階の一部を、福祉交流センターと福祉作業所という形で複合化施設として使っています。こちらは誰でも子育て世代や高齢者がいつでも自由に立ち寄ってそこで、井戸端会議をしたりサークル活動や教室を開いたり、自由にできる空間になっています。

その隣にあるのが福祉作業所で、障がいをお持ちの方々が作業所として通われ作業をされている場所になっていて、キッチンやトイレなど多少の改修はされていますが、基本的には、設計当初の教室を活用する形で複合化しているという事例です。こちらは障がいをお持ちの方なので施設を学校に併設しても大丈夫なのかと言う意見もあったようですが、非常に良い形で地域の方々にも理解されているという話がありました。

次が廃校後施設の利活用で、統廃合等で廃校になってしまった校舎、まだ使える「ハコ」を使っている事例をご紹介します。こちらは原宿外苑、表参道駅から徒歩いけるような非常に立地的にはいい場所で、渋谷区原宿中学校の跡地です。こちらは「ケアコミュニティ原宿の丘」という施設で、1階が高齢者福祉の施設になっていて、今は確かダスキンが運営していると思います。これは廃校後に区が地域の中学校のOBや、元PTAの方を集めて施設の活用検討会というのを発足しました。施設内容や外観をそのまま残して欲しいという要望を一応まとめて、複合施設として転用されることになりました。1階にはデイ・サービスセンターを民間委託で開業し、2階3階はほぼ教室の形そのまま、コミュニティ施設として開業しています。これはサービス公社による運営です。

こちらが1階になりますが、教室の廊下と教室を仕切っていた壁を外して耐震壁は残して、抜けるところの壁を抜いて、ちょっと広いダイニングを作っています。車椅子の方が使えるような流しに改修しているが、大きな骨格はやはり学校なので廊下と教室という構成が残っています。特別教室などは一般浴室、機械浴室などに改修されて、デイサービスに通われてきた方がお風呂に入れるような施設になっています。

それから学校は実は、バリアフリーではないものが多いので、エレベーターをつけたり、昇降口に段差がある場合が多いので、スロープをつけたり、車椅子用のトイレを改修して新たに付け加えています。給食を作っていた厨房はそのままデイ・サービスセンターの厨房という形で使われていました。

2階3階はそのままなので、今日はお持ちしていないが、貸室的コミュニティ施設として使われています。

次はもう少し地方に入りますが、徳島県の上勝町にある小学校の跡施設の利用です。

これは住宅に転用した事例です。1階はこのまちに若い世代に残って欲しいという

ことで、かなり安い値段で起業した人が事務所とし開設できるようにと賃貸事務所のスペースとして貸し出しをしている。2階3階は賃貸住宅として転用して、若い人たちを優先的に入居させているという状況で、校庭は駐車場として使っています。こちら1階が教室の構成そのもので、オフィススペース、それから、2階3階は教室の中に一個の住居を入れるという、スケルトン・インフィルの考え方で作られた住居になっています。これが一つの教室の大きさで、その中を木製のインフィルを入れて、IHのキッチンとお風呂、トイレ等入れて1個の住宅になっています。

最後です。多摩ニュータウンにある、廃校になった中学校の跡施設利用の事例です。こちらは多摩市の市立図書館として使われていますが、実は元の市立図書館がアスベストか耐震の問題で急遽改修工事をしなくていけないので、暫定的に改修工事が済むまでの十年間の利用という形で、この空き校舎を使っているという事例です。こちらもやはり、エントランスにスロープを設ける工事や、あと図書館の搬入路というような裏導線が学校にはなくて、非常に苦勞されているというお話がありました。中に入るとエントランスがあって貸し借りできるカウンターがあり、廊下と教室の壁をすべて取り除いて図書室にしています。非常に動線が長くなってしまふことや職員の見渡しが利かないといった問題もあるが図書館としては機能しています。もと、昇降口だったところは、テラス席として活用しています。理科室は、子ども図書館として児童用の図書を集めたコーナーになっていました。

2階以上については閉架書架になっていて、職員が主に出入りするところになっています。暫定利用が前提なので空調の新設はなかったが、図書を入れる関係で直射日光を入れられないが、学校はふんだんに取り入れる構造になっているので真夏でもすべてカーテンを閉じて窓も開けずに暫定利用なので仕方がないと話していました。

図書館へ改修する場合の留意点として床の加重が学校と違います。一般的な閉架書架では、よく機械式で集密図書館にしてしまうが、それをやると床が抜けてしまうので、閉架書架ではかなりゆったりと書架を置いて使わないと危険な状況です。部屋はたくさんあるが、その分職員の動線がどんどん長くなるというデメリットもあり、一見、学校から図書館へは変えやすい機能に思えるが、構造的な留意点が必要なことがこの事例からわかります。

それから、学校の転用で考えないといけないのが、プールと体育館という大きなハコで、これをどのように活用していくかと言うのがいろいろな学校での検討事項として上がるようになっていきます。現在、こちらの体育館は文化財書庫として、市役所が管理する倉庫として使われています。

最後ですが、民間参入の事例で売り払ってしまった事例ですが、神戸の外国人居留地の北野地区という場所にあった非常に古い学校です。震災のときに校舎がだめになってしまい、一番古く建てられた校舎が一番頑丈で残っていたということで、神戸のお菓子メーカーが主催して、神戸ブランドに出会う体験型工房という名前で「工房のまち北野」という施設にしています。校庭は、観光バスが止まれる大型の駐車場にして、プールは防火水槽として使っています。震災の時には昭和34年に建てられたものが全壊し、昭和6年に建てられたものが残ったという状況です。観光客用の外から使えるトイレを新設していたり、昇降口にはゆるいスロープをつけてバリアフリー化しています。

もともとの校舎の構成そのままだが、各教室の部分が工房型店舗として観光客を寄せるような施設として開業しています。神戸は中華や洋菓子などいろいろな文化ありますので、それらを体験できる施設ということになっています。所々に地域の方が使える学校の記憶を残すギャラリーが設けられていて歴史的なものが展示されていたり、いつでも自由にこのスペースを使って、地域の人たちが打ち合わせができるような場所として提供しています。

いろいろと学校施設の活用事例をご紹介したが、学校は単なる「ハコ」、公共施設ではなく、そこで育ったりそこで人が作られるというソフトの面の意味も非常に

	<p>大きいと、そういったソフト面や記憶をどう継承しながら、地域の人に愛されるハコとして、使い続けるかみたいなのが我々の建築計画の分野では課題になっていくのかなと考えております。</p> <p>事例は以上でした。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、ありがとうございました。ここからの議論は龍ヶ崎の今後のあり方を考えていくにあたって、今、倉斗委員にご紹介いただいた様々な工夫や取り組みをそれぞれの地域でやっているかと思しますので、それをご苦労も含めて直接関わっているもの、もしくは検討するにあたって参考とした事例等も含めてご提供いただいて、提案書、最終的な報告書の検討材料にしていきたいので、よろしくお願ひします。</p> <p>参考資料にある通り、龍ヶ崎市の公共施設の中では、学校施設が比較的ボリュームが多いので、その事例について倉斗委員にご紹介いただいたが、それを含めて、新しいカタチについて、議論を進めていければと思います。機能の組み合わせやソフト面における運営の仕方や、またそれを転用するにあたって、どのように地域の方にご理解いただいていたのかのポイントを一つ一つ、ハードルをクリアしながら進んできているかと思しますので、その辺のご経験をお話し願ひできればと思っています。</p>
<b>事務局</b>	<p>ありがとうございました。学校施設を利用しようするのは難しいと感じていたが、倉斗委員は建築の分野でいろいろお進めになって、できる地域とできない地域があると思うが、全国的に見てうまくいったところの特徴的なものはあるのでしょうか。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>そういう形では見ていないが、うまくいっている地域は、首長さんや教育委員会がまずやるぞという意欲があることと、地域が安定していること、歴史がある学校は廃校にすることには反対がおこるが、ハコを残して使い続けましょうと変わった段階で地域の方からも意見が出てくるので、それがうまく回ったところは、地域の人に愛される、利用される施設になるという印象はもっています。やはり複合施設になると、防犯の話が必ず出てくるが、絶対に安全な策はないです。その時に、もちろん自治体側の工夫や運営側の配慮などいろいろあるとは思いますが、地域がどういう姿勢で臨むかというところで、その責任を行政に負わせる姿勢のところはうまくいかないのですが、地域ボランティアでNPOを作って運営しますというところは、うまくいっているのかなという印象があります。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>それぞれの地域で、参考になりそうな要素やヒントをご意見も含めてお話しいただければと思います。西尾委員、いかがですか。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>さいたま市も龍ヶ崎市さんと同じで公共施設の半分が学校ですので、今日は、いろんな事例をお伺いして参考にさせていただいたと思ひました。ご紹介いただいた事例の中でも色々なパターンがあって、一つは新設というパターンで、今後は新設はないかもしれないが、更新の時に新たに建てる時には、ゼロベースでいろいろなことが考えられるので、先ほどのセキュリティの問題も動線をきっちり物理的に分けたりとか、そういうこともできるのかなと思ひます。</p> <p>二つ目のパターンが今ある学校の中で、余裕教室ができた時にそれを利用していく。これは物理的にはなかなか変えられないので、どちらかというソフト面でいろいろな工夫をしていくということかなと思ひました。</p> <p>あと、最後の三つ目のパターンは、廃校の利用でこれは多分龍ヶ崎市さんもさいたま市もまだしばらくはないのかなと思ひますが、大きく三つぐらいのケースに分けていろいろ考えておくということが必要かなと思ひました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ありがとうございます。志村委員、何かありますか。</p>
<b>志村委員</b>	<p>学校は土地も建物も一番大きいです。それを使わずして、公共施設の全体最適はなし得ないです。経験則からお話すると、もう十数年前、住宅都市機構、今のURが作った団地の中にあつた学校で、子どもたちがみんな出ていったので保有してい</p>

	<p>る40教室のうち使っているのが12教室という小学校がありました。空いている教室のうち12教室を介護予防施設に転用をした事例が秦野市にはあります。ちょうど私が教育委員会で担当していましたが、やはり学校の中へ大人が入るのは困るという意識が非常に強いです。それで、1階から4階までであるが、1・3・4階は防火壁で仕切り、2階は「せめて掘りごたつの間でも造って子どもたちが休み時間にここまで来ていいよ、介護予防施設に来た人もここまでならいいよと交流できる部屋を作りましょう」と学校に申ししたが、最後の最後まで「うん」と言ってもらえなかったというような経験あります。</p> <p>ですから、倉斗先生の資料をみても、校長と教頭は度量が広く、相当大変だったと見ていたが、人材に恵まれていればできるが、そうでない場合のほうが往々にして多い。ですから、今ここで龍ヶ崎市さん、「カタチ」とカタカナ書きで見せているのが非常に興味しました。「機能」と言うと固いです。「カタチ」と言うと「ハコ」でもないし、「中身」も色々ありそうで、市民のみなさんもわくわくするんじゃないかと、そういう仕掛けだなと思い、非常に感心したのですが、やはりこのような意識をできるだけ多くの人たちの中に浸透させる。市民から先生たち何を言っているんだよというような声ができるようなものを作り上げていくことも大事なかなと思います。</p> <p>さっきの「北野工房」のまちですが、関西でセミナーがあったので足を伸ばして行ってきました。案内のおじさんはその小学校の卒業生でご近所に住んでいて、たぶん定期的にボランティアで通っていると思われます。この学校はなんで廃校になったのに残っているのか聞いたら、「地域から学校がなくなると中心が無くなってしまう」と言っていました。そういうところからも複式学級になってしまうようなところは教育上仕方がないと思いますが、できる限り学校というものは、最後の最後まで守り続けるべきものなのかなと。</p> <p>学校の統廃合にいたるまでに大人たちはどれだけ我慢したのか、そこが問われるのかと思います。龍ヶ崎市がこの先、学校をどうするのか明確になっていないので分からないが、私はそのような思いを持っています。秦野市の計画も全小学校区は壊さないという計画をしています。そのためには、便利なところに住んでいる大人たちが少し我慢してくれと言っています。これは私の考えだけでなく市長の考えとも合っているのです。そういう計画になっているが、やはり学校はいつまでも地域の中心として使うべきなのは必須なのかなという気がいたします。</p> <p>それと、もう1点。これは蛇足かもしれないですが、非常にすばらしい施設でやっぱり見ると誰もが欲しいな、作って欲しいなと、多分龍ヶ崎市民が見てもみんなそう思うと思うが、秦野市民でもあんなのがあったらいいなとみんな思うが、ああいうものをいくらでも税金をかけて、作っていいんだというのは昭和の行政です。ああいうものをどれだけお金をかけずに作って、維持管理費用を安く抑え、或いは維持管理に充てる収入を増やしていくか、そこまで考えなければいけないのが我々担当の仕事だと思います。</p> <p>この先また議論になると思いますが、これから一番必要になるのが、官民連携、公民連携の手法だという気がします。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>岡田委員。</p>
<p><b>岡田委員</b></p>	<p>地域の力が滲み出てくるものだと思います。結局は公共施設再編成の取組みは手段であって目的ではない。目的は何だろうと考えた場合、ここで言う、龍ヶ崎市の生活の形は、そのまま施設の形が手段になってくると思うので、そこをきちんと手段を目的化と言っていてなってしまうが、それをしっかり考えていくべきだと私自身が思います。上勝町は、私は葉っぱビジネスが先に出てきます。そういう地域だからこそ、ここから先は想像ですが、中山間地域の地位気力が芽生えてきて若い人が帰ってきたい、だから住宅をとという発想になったのかもしれない。地域力を総合してみ、ここの施設をどう使おうか、どう複合化するかというのは良く考えてみ</p>

	<p>たいと思います。</p> <p>ちょっと、天邪鬼的言い方をすると、果たして、龍ヶ崎市で複合化は有効な施設なのか、もう一度考えたい。習志野市は、土地が無いので上に積まない仕様がないが、宮代町みたいに横に行く形もある。複合化という上に積み上げるイメージがあるが、そうではなく単体で軽い建物で運営していったほうがいいのか、民間の力を借りながら、市民の力を借りながらみたいところも、一概に複合化をうのみにするのは一度考えたほうが良いと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>そこらへんの形のところで「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」のダイジェスト版を配布してもらっているので説明を一言いただきたいです。目的や方向感、まちづくり全体のビジョンを考えにあたって1番最初に考えないといけないことですよね。</p>
<b>事務局</b>	<p>先ほどお配りした「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の3ページをご覧ください。龍ヶ崎市は総合計画ではなく、「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」という重点的なもの、市の最上位計画を総合的なものではなく、より絞ったものになっています。重点戦略が4つあり、まちづくり宣言として、まず「協働のまちづくりと地域力のアップ」に向けての地域力のアップは龍ヶ崎市として欠かせないことの一つになっています。</p> <p>重点戦略の2は、「子育て環境日本一を目指したまちづくり」ということで、龍ヶ崎市は、待機児童ゼロの状態です。小学校3年生までの学童についても、待機児童ゼロということで今、小学校6年生までゼロに向けて取り組んでいるところです。</p> <p>重点戦略3、「まちの活性化と知名度アップに向けて」。</p> <p>重点戦略4は、「安心と住みよさが実感できる生活環境づくりに向けて」。</p> <p>ということで、四つの重点戦略でやっていて、公共施設に龍ヶ崎市のまちの目指す姿に関わってくるのは、やはり地域力のアップだと思っています。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>倉斗委員、何か。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>私は建築の専門でこれまで施設の研究をしてきたが、実は総量削減とか公共施設再編成とかに関わる前から、学校を複合化してとか、子育ての拠点とするような施設というのは何なのかなどを考えてきた人間で、それと今の総量削減というのがだんだん時代としてマッチしてきているのかなと感じています。</p> <p>例えば、重点戦略の2は、「子育て世代の創出に向けて」とか「安心と住みよさ」とかというのを見ると、その学校が何か他の施設と複合化していることで、すなわち重点戦略という位置付けに十分できるのではないかと個人的には思っています。マイナスイメージで減らしていかないといけないとか、お金がないとかを理由とするよりは、前向きに管轄とかではなく、本質的にどういう施設が望まれているのかを考えても、十分とは言い切れないが成し遂げられる複合という考え方があると思うので、そういったことを実現できるというのを感じています。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ありがとうございます。西尾委員、どうぞ。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>ご存知かと思いますが、文部科学省でも学校の複合化について、方向性を出しているところで、倉斗委員がおっしゃっていたように、「地域のコミュニティの核」という言い方をしていたり、防災拠点としての機能を高めたりとか、単なるマイナスイメージだけではなく、新しい価値や機能を創造をしていくという意味も複合化に見出そうとしている状況がでてきている。そのようなところも取り入れていくことがまず重要だと思います。</p> <p>龍ヶ崎市さんは、学校の建てかえはまだ喫緊に迫ったものではなくて、少し時間的な余裕がある状況で、さいたま市も比較的そうですが、なるべく、切羽詰まってからやるのではなくて、早い段階から特に市民の皆さんとの意識の共有に取り組んでいくことが大事なかなというように思います。</p> <p>さいたま市でも複合化というのは、イメージだけでいうとやはり学校の安全性とか教育の独立性ということから、どうしても反対、マイナスイメージが持たれる方</p>

	<p>が多いが、今日もご紹介いただいたが、実際のものを見ると全然印象が変わってくる。私たちも去年からワークショップを始めて、皆さんと一緒に志木市であったりと先進事例を、いろいろなところを見に行くと、複合化のイメージがガラッと変わって前向きな議論ができる。そういう経験もしてますので、色々な事例を市民の皆さんと一緒に見たり、勉強したり、少しずつ時間をかけながら意識の共有化を図っていくことが必要かなと思います。</p> <p>ただその時に先ほど志村さんが指摘され、私も感じているが、今ある先進事例は割と豪華なものが多く、それと同じものを求められると厳しいものがあるので、やそこで実現されている価値や機能を共有した上で、できるだけ豪華すぎるものを作るのではなく、身の丈に合った施設を実現していくと。そこまでの意識の共有化ができれば非常によいのではないかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>それを市民の方と共有していくには、どういう進め方をしていったらよいのでしょうか。多分それが龍ヶ崎市がこれから戦略プラン考えていく上での悩みのポイントかなと。大まかな方向性はそれほど違ってない、習志野市さんは踏み出しているが。どこからどんなふうに進めていったらいいのかとか、何かご経験でご苦労でもアドバイスでも何かあればいただきたい。</p> <p>先ほどの教育委員会とのボタンのかけ方などもそうかもしれない。今志村委員は教育委員会と兼務ですか。</p>
<b>志村委員</b>	<p>そうですね、今併任して、地域の方に苛められている最中ですけども。合意形成という側面からいくと、どうしても声の大きいの方ばかり向きがちです。その方が楽だから。そういう人達の声聞いて、静かにしてしまえば後が楽だからそのようになります。でも、その声は地域の声を代弁してるかという必ずしもそうではない。ですから、できるだけ広く今まで声を発しなかった人の声も取り入れるには、どうやるのかということである。まだ、秦野市のシンボル事業に関してはそこまで至っていないので、どういう方法をとるか決めていませんが、一つの参考として、秦野市の総合計画を作るときに、「策定に加わりませんか」と無作為抽出の市民にお手紙を出したら、今までそういうのに参加したことのない人たちが200人ぐらい集まっています。</p> <p>どうしても、声をかけやすい人とか、どちらかという市役所寄りの意見を出してくれる人とかを選びがちだが、実は場所と時間を配慮してあげれば、こういうことにぜひ参加してみたかったという市民で大勢いらっしゃる。その会議も大抵、土曜日の午後にやっていたのですが、これは龍ヶ崎市さんが最終判断することですけども、できるだけ広く今まで声を発しなかった人の声を取り入れることが、地域の声を代弁したものになると考えます。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>現場で関わってきた倉斗委員、どうですか。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>大きくなってしまう。市でやる委員会となると、来てくださる方はやっぱりある属性の方に偏りがちなことがある。実は今日ご紹介した事例ではないが、熊本の方で小学校と中学校を、それぞれ隣にあったのを中学校の校舎を利用して、増築をする形で小中一貫にするというプロジェクトがあって、そのワークショップをやっていた時に、地域代表という感じで発言をすごくされ、つまりは一緒にするなという意見を大きな声でおっしゃる方がいた。最初のうちは我々もこんなに地域が反対しているのかという印象を受けながら、ワークショップをやっていたが、何回目かで子どもを通わせているお母さんがすごくおずおずと手を挙げて、「私はなんで反対しているのか分からなかった。こんなにいい物ができるのはうれしいと思っていたのに」とボソッとおっしゃった。これを引き金にして「実は私もこれは賛成だ」と言う声が一瞬と出た。声が大きい人というのは、そういう存在なのだなと実感した。</p> <p>方法はいろいろ難しいのかもしれないが、そういう会議に参加できないような世</p>

	代、子育てしていて働いていて、いつそういうのに出るのというような人たちが、どう考えているかという声を、いかに拾うかというのはこのような話を進めていく上では必要なことなのかなと感じています。
<b>藏田委員長</b>	ニーズからするとどういう形であれば、声を出せるのか。
<b>倉斗副委員長</b>	私は子育て世帯なので、保育園に通わせて来年は一人が小学校に入ってという状況で、子どもをそれぞれバラバラに迎えに行ったりと大変です。そのような状況で例えば地域の何か活動に参加しようとしても子どもは誰が見るのと。それらはそれぞれにしか語られていなくてそれをやっている市民というのは実は一人だけだったりするので、もう少し一元的に見てほしいなというのは、市民として思っています。
<b>藏田委員長</b>	そういうところも配慮して、できることは限られているかもしれないができる範囲の中で工夫しながら、いろいろな意見を聞いていくのは必然で、よけい難しい問題であればあるほど、そういう工夫をして良い意見なり、本当の本質をどう見極めていくのかが必要かなと。志村委員どうぞ。
<b>志村委員</b>	<p>ご存知かもしれないが、一つだけ参考までに。秦野市の方針と計画を作るときにEメールで委員会に意見を届ける、Eメンバーを10名採用したが、氏名は非公開ですが、今まで市の会議、公式の場に参加した人達は1人もいなかった。そういう方法も一つあるのではと思います、参考までお伝えしておきます。</p> <p>ただ、秦野市の場合それが大成功だったかは、ちょっと反省すべき点があることは事実です。中にはスーパー市民みたいな方がいてすごい意見を出すので、周りの方はそれ並みの意見でないとなかなか多分だめなんだろうと引いてしまい、最後の方には、あまり意見が活発に出てこなくなってしまうという失敗点はあったが、それも一つの方法かなと。会議室で同じ時間に顔を合わせてやるのも合意形成だし、今facebook、Twitter、LINEといった、コミュニティでみんな意思の疎通を図っている世代が沢山いるし、それらに対応できる人たちの年齢層も大幅に広がっているの、参考までにお話ししておきます。</p>
<b>藏田委員長</b>	ありがとうございます。西尾委員、どうぞ。
<b>西尾委員</b>	<p>ワークショップのことで追加ですが、去年からワークショップを複合化に関して始めまして、非常に有効な手法だなと感じています。そこでポイントになってくるのは、学校の校舎を建てかえるときに周辺の施設を校舎に取り組みで複合化できないかという設定でやっているが、平面図を用意して具体的にどういう配置にしていくなか、設計段階から市民の皆さんと一緒に議論しながらやるという事でやっています。設計の案を作った上で、それを実際に運営していくときにどうしていったらいいのか。特に先ほどからあるように、学校の児童生徒の安全やセキュリティを確保するという観点でいうと物理的な配置等も当然重要ですが、ソフト的な大人の目が常に触れるようにしておく工夫が必ず必要になってきて、特に地域に開かれた施設にしていくには地域の人にそういったことに関わってもらえる要素が出てくるものだと思います。そこで議論していくと地域の皆さんがこの学校をどうしていくか、自分達も使うが子供たちも使いやすいようにどうしていくかと、いろいろな議論をする中で、その地域の人たちにとって、これは自分達の施設なんだ、自分たちが運営する、よくしていくんだという空気が芽生えたのは感じています。</p> <p>ワークショップもでき上がったものに対して意見をもらう形式ではなく、どういったものを作っていくか構想の段階から地域の方と一緒にやっていく。その時に、正直にお金がない話や、豪華な施設は作れないことなど、できるだけ情報を開示して理解してもらいながらやるのが大事かなと思っています。</p> <p>今回、ワークショップをやった時には、全体の延べ床面積に上限を設定して、この範囲の中で皆さん考えてくださいと。今ある施設を全部足した面積よりかなり少ない面積の上限面積を設定してこの中で、今ある機能をできるだけ生かすためにはどうしたらいいか検討していきたいと正直に申し上げて、やらせていただいた。</p>

	<p>ちゃんとそこは説明をすれば、お金がないことや豪華なものは作れないことを理解していただけるので、できるだけ行政の事情や情報を公開しながら、構想の段階早い段階から市民の皆さんと意見交換していくことが重要なかなと思っています。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>倉斗委員、いかがですか。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>今のワークショップの話は本当にその通りで、公共施設を作るときにワークショップをやるのは最近一般的になってきているが、まだ浸透してない部分があって住民説明会のような姿勢で臨んでいたり、また開催する自治体側もそういうプログラムで作っていたりするが、そうすると計画している側の市と対地域みたいなやり取りになるので「この施設をどうしてくれるんだ」と投げやりな意見が多く出のですが「それを考えるのがワークショップ、皆さんなんです」と委ねてしまうような姿勢でやっていくと、最初はいろいろあるかもしれないですけど、だんだん自分たちで作っている気に市民の方もなったださるので、何か否定的な意見が出た時に、それをどう解決するかをここで考えようよという空気が市民の中に芽生えてくる。いいサイクルで作られた施設というのは、結局市の担当者や学校の校長先生は異動で代わってしまうが、地域の方はずっといらっしゃるので新しい施設管理者が入ってきた時に施設のコンセプトを滔々と、利用者の方が説明してくれるという状況が生まれたりする。</p> <p>ここで書かれている新しいカタチをこちらで設定して、「龍ヶ崎市はこういう形でやります」というよりは、多分この形自体をみんなで考えていくことが、新しい形だと位置付けていくといいのかなという印象を持ちました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>岡田委員、住民説明会を重ねていていかがですか。</p>
<b>岡田委員 01:47:51</b>	<p>大体反対意見として言われることは、「なぜ年寄りばかりなんだ」と年寄りに言われたり、「なぜ人数が少ないのだ」と3人しか来てない会場で3人に言われたり、けれどもそれは特に気にする必要はないと、それを気にしてはもう気がもたない。7月13日に図書館とかを含めた生涯学習施設、この施設をどうしますという具体的なシンポジウムをしたが、そこで出てきたアンケートは8割が早くしてください、でも図書館はなくさないでくださいとか書いてあって複雑です。</p> <p>だから、やはり先ほど倉斗委員がおっしゃったように、みんなで考えるということやっていくと、自分の思っていたのは、まちづくりの全体とはちょっと違っていたな、自分が我慢すればすむことだなと気づく瞬間が多分あると思います。やはり、時間があればそういう機会を沢山設けたほうがいい。私たちは切羽詰まってやっているんで結構内心は焦っているが、焦ってやるのは悪いことばかりではなくて、すぐ具体的な話ができると楽天的に捉えればそういうことなのでやらせてもらっている。</p> <p>「ワークショップやれよ」と言われて、「できるわけじゃないじゃないですか。職員が2人しかいないんだから」と言って、「2人しかいないの」と逆に「それなら俺達やるから」みたいな人も出てきたので、何が悪いと決め付けないでいろいろやってみるのも一つかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>参考例として、私、埼玉県ふじみ野市で、今年の7月「オールふじみ野未来政策会議」をやらせていただいて、それはなにかとというと、事業仕分けをずっと4年間やってきたが、そういうものはもううんざりだと。もう少しみんなが楽しくできる方法はないかなということで、だれも答えがない未来のことを考えるのであれば市の職員も市民も一緒にしよう。それは来る人たちも一緒にしよう。だから何も答えがない二つの「シティプロモーション」というテーマと、まだ買うことも決まっていない埼玉県から払い下げられるかもしれない「旧福岡高校跡地の利活用」をみんなで考えてみましようよ、結果どれがいいとか決めませんよ。</p> <p>みんなでいっしょに考えていきたいと思いますよ、職員チームと市民チームとフロアの方も含めて、各テーマ4時間位かけて議論して随分盛り上がり、市長さんもずっと</p>



	<p>聞いていましたけど、どんなに正しいことでも人から押し付けられるのはもううんざりの市民の感覚になっていて、正しいこともまずいことも自分が決めていく。そのプロセスに關与するその中で、地域の中で言えば一番のブランドはやっぱりまちづくりの政策というところに触れ合える。ふじみ野も無作為で沢山の新たな市民の方が登場しましたが、やっぱりそういうところに政策の向き方決め方も含めて踏み込んでいかないと、なかなか一生懸命内部で考えたりするだけでは、どんなによいものでも実現性がない、先に進まない。</p> <p>だから、西尾委員もおっしゃっていたように先に進めるために、予めそういう人たちと一緒に柔らかい段階から作っていくみたいな工夫をどんどんしていかないと計画の作り方自体からも変えていかないと難しいかなと思います。やってみて楽しかったです。市民の方もそうだし、加わった職員の方も目の色が変わりました。関係するような人達の中でのキーパーソンを巻き込んで、そういう体験と一緒にしていく、巻き込んでいくということをしていかないと。その工夫を、埋め込みをまさにこれからしていくことを考えるのが今のタイミングかなという気がします。</p> <p>そろそろ、時間ですが、一つ縦割りのことをちょっとお話を聞きたいなと思っています。志村委員に先ほど振らせていただいたのですが、進めるにあたって巻き込みのところもあるので、各分野ごとに複合化ではもちろんのこと、学校施設は組織自体が教育委員会に分かれると。そこをどんなふうに乗り越えていくのか。岡田委員もそうだが、専門の再配置や施設・資産の活用を設置していく、龍ヶ崎市はまだその段階では無いみたいだが、その辺の必要性とか、ちょっとコメントいただけるとありがたいのですが。</p>
<p><b>志村委員</b></p>	<p>確かに縦割りで仕事を進めていくと色々なところとの調整、福祉や生涯学習、学校教育であったりと横断的にやるというのがある。端的に申し上げると縦割りがなくなるかっていうとなくならないです。みんなが同じ方向を向くかというとか向かない、温度差はあったままだし、結論から申し上げると、キーマンのマンパワーです。ですから、そういう人をいかに配置できるか、或いは、もうやらないなら文句も言わないと、そういうふうにするかどうか。あと、人事上の戦略というか、今教育委員会の筆頭課長はこの仕事を一緒に始めた課長です。なぜかという教育施設が一番多いからです。そういう人事上の戦略を市としてきちっとやってあげられるかどうか、その上で、キーマンになる人間を置いて、ある意味言葉が悪いが、強引にでもやっていかないと進まなくなってしまう部分があります。</p> <p>みんなで和気あいあいと、同じ意識を持ってできればそれに越したことはないです。でも、私が知る限りはそういう市役所は今後は出てくるかもしれないが、今まで見た事はないので、龍ヶ崎市さんにも多分苦難の道のが待ち受けてると思っています。おそらく、松尾さんあたりがキーマンになって、がんがん巻き込んでやっていくことが必要になるのではないのかなと思います。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>岡田委員、コメントは。</p>
<p><b>岡田委員</b></p>	<p>それぞれの部署で問題を抱えている、ひずみが出てきているので、困ってるところに甘い言葉で擦り寄って「一緒にやろうよ」と言って巻き込んでいく。最終的に例えば教育を例にとると、学校の複合化を例にとると、やっぱり議会でも地域との連携とかいろいろ言われていて、打ち出さないといけないで困った困ったとやっている。老朽化もあって事後保全であっちこっち壊れる、困った、困った。で人手は足りないみたいなのに、「複合化しましょうよ」と自称ホワイトナイト的に入っていくのです。</p> <p>そういった時に妥協点はどこだろうと、三つの前提を導き出した。学校を複合化する時にはやっぱり導線を分けて考えよう。地域によっては融合できる場所もあるが基本的には分けて考えましょう。管理区分をとりあえず分けておきましょう。三つ目は、生涯学習施設を入れるとしたら、学校以外のところは利用団体を作って、ちゃんと学校側のメッセージが上から下まで届くとか、そういう流れを作</p>

	<p>りましょうと三つの引き出しを作った。それが守られれば、学校の複合化はOKと今教育長以下言っているの、やはり相手も人間だし、そういうきっかけを見つけてやっていこうと今やっている最中です。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>西尾委員、お願いします。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>特に教育委員会との関係を申し上げたいが、トップの俗人的な問題はもちろんあると思いますが、さいたま市でちょっと潮目が変わったかなと思うのは、最初教育委員会は乗り気ではなく、反対の立場であったが、途中で潮目が一気に変わったということがありました。なぜかという、学校はほとんど十分な維持経費が確保できていない、本当に緊急的な修繕に事後的に対応するのが目いっぱい、それさえもできてない状況で、実際に学校の建物を見に行くと、ほとんどがボロボロの状態になっている状況でした。この建物がこれからあと10年、15年経って、建て替えの波が来た時に、教育委員会は本当に全部建て替えができるのかと、突き詰めて考えていくと、おそらく危機感を持っているはずだと思います。</p> <p>今は当面は耐震の対応というのがあったので、まずは耐震を全力でやってきて、耐震が今一段落したところで、ついに、老朽化、建て替えの問題はもう抜き差しならない、直面しなくてはいけないという状況に教育委員会は来ていると思っています。その危機感が共有できれば、同じ方向を向いて一緒にやっていけるのではないかと思います。もし、教育委員会がのってこないとすれば、それはこちらの公共施設マネジメントの取り組み自体がまだ市の取組として認知されていない。この取組が市として全庁を上げて必ずやっていくんだということが認知されれば、必ず教育委員会は自分たちの持っている学校の校舎を今後、波が来たときに建て替え対応しなくてはいけないことを踏まえれば、方向性は合ってくるはずですので、危機感をきっちり共有化するというのと、あとはこの取り組みが市の全市を上げた取組として、位置付けとして認知を得ていく。その2点が揃えば、いっしょにやっていけるのではないかと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>今回、議論してるようなこの再編の計画や方針に、そういうものを位置付けていくというのも一つのアイデアですかね。時間的にはそろそろですが、何か言い残した人は、はい。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>最初のピックアップのところで、尻切れトンボになっている議論があって話して思ったのですが3ページの(2)の選定基準で①②③とあって、ファシリティマネジメント情報とコスト情報と利用情報があるが、加重を持たせるのか3つでやるのか、さっきはよくわからなかったが、例えば、①だったら古いものから1,2,3,4,5,6とぱっとつけて、これはひとつ古さの物差しで測りました。②はコスト情報で、例えば平米あたりの委託料とかコスト情報で一番から、かかっている施設から順に並べて、それで、利用状況は分からないですが他にあれば、④⑤と付けていって4番から最後までものさしをあてていって、ほかにあったら順番をつけていって、一番多くあっている施設はピックアップする。そして、最後何もあたらなかった施設があるのかどうか分からないが、それで優先順位をつけて、ここまでは入れようとか。それはちょっと指標で、そこでまた財政の話が出てくるのかよく分からないが、そういうやり方をちょっとしてみたらいかかかと。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、ありがとうございます。時間となりました。議事については以上で終了し、事務局にお返しします。</p>
<b>事務局</b>	<p>はい、ありがとうございました。当初に掲げました、今日皆様にご議論いただきたい点、懇切丁寧にいろいろお話いただきましてありがとうございました。</p> <p>では、時間でございますので、次回の第4回となりますが、開催日程について確認させていただければと思います。第4回は、9月30日月曜日、14時からという予定でございます。</p> <p>皆様の方で何か他になければ、以上をもちまして締めさせていただきますようお願いいたします。</p>

	<p>ますが、よろしいでしょうか。長時間に渡りましてご議論ありがとうございました。 以上をもちまして終了させていただきます。</p>
	<p>平成      年      月      日</p> <p>会      長 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p>